

朱書。御藏返米相渡刻、石に二升宛御代官口米引相渡申候。

一、銀一分二分、米一升二升算用違ひ候者、過不足は委曲にわけを立、其上を以引捨可申事。

一、御代官算用違に而、百姓より取過、御土藏の上候金銀米之分は、小拂奉行より請取可相返事。

朱書。上過御座候得者、翌年上りに而指次申候。

一、大阪登米相濟次第、早速代官所可遂算用事。

一、御買米其所之相場を以直段相極、代銀無滞可相渡事。

一、他國米買并脇賣、留申間敷事。

一、御調米、藏本能所候者其儘入置、七月越候者如定藏敷可遣事。

一、御收納藏に買米取候者、以借馬爲着可申事。

一、小算用人對上奉行、慮外構敷躰有間敷候。諸事上奉行申渡儀、違背仕間敷候。但、無理成儀申付、斷於不聞入者、對馬・因幡・玄蕃・民部に可申聞事。

一、用所無之もの、算用場に參間敷候。附、用所相濟候者、早速可罷歸事。

右被仰出之通相違有間敷者也。

萬治二年六月初日 御印

今 枝 民 部

津 田 玄 蕃

奥 村 因 幡

前 田 對 馬

金澤御算用場

二 檢地奉行檢地之儀御定

在々檢地之定

一、用水江代無之分者可指除。但、江指など候はゞ除申間敷事。

一、百姓居屋舖之廻り唐竹藪、二尺より廣き道、并宮・石塚・墓所除可申事。

一、桑・楮・茶之木・麻苧・菜・大根畠者、田成之事。

一、粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・麥・芋・菜種之はたは、御扶持人之十村に誓詞申付爲圖、遂吟味可相極事。

一、田地堺、双方之百姓に誓詞申付、堺目念を入、はいふをさゝせ可申事。

一、川崩等永不納之所々、殘高田地堺、念を入はいふをさゝせ、檢地可仕事。

一、檢地奉行誓詞申付、御算用之者并横目差添遣可申事。

朱書。只今者檢地奉行迄被遣、御算用者・御横目は不被遣候。

一、禮儀・禮物取申儀者不及申、少茂百姓之費不罷成様、堅可申付事。

右被仰出之通相違有間敷者也。

萬治二年六月初日 御印

今 枝 民 部

津 田 玄 蕃

奥 村 因 幡

前 田 對 馬

金澤御算用場

三 出船升廻等之儀御定

米船着岸次第、船道具以下相改、早速致出船候様に、御奉行人に可申付事。

一、米濱出之砌、藏より川端迄平夫に爲持候者、五分宛之

日用銀可遣事。

朱書。只今者日用人足に申付、御定之日用銀相渡申候。

一、升廻欠米帳面に記、升相添無滞先々に遣、御算用場の茂同前帳面上置候様に可申渡事。

朱書。只今者升相添不申、一統之新京升を以升廻申付候。

一、御國之内に而被損有之候者、奉行人早速其所に遣、致吟味、御扶持人・十村令相談、濡米等如跡々裁許仕候様に可申渡事。

右被仰出之通相違有間敷者也。

萬治二年六月初日 御印

今 枝 民 部

津 田 玄 蕃

奥 村 因 幡

前 田 對 馬

金澤御算用場

四 御召米之儀御定

覺

一、公儀に御召米、其翌月御算用場より藏本に人を遣、所